



大平首相と握手するクラーク首相。左はマクドナルド外相。

対米・太平洋関係を重視

ケベック問題は二二七、八カ月が山

クラーク首相

六月末東京で開かれた第五回主要先進国首脳会議（東京サミット）に出席したクラーク首相は、会議のあと、トロント・スター紙の記者と六月四日の就任後、初めての単独会見に応じ、サミットの成果および今後の諸政策について述べた。会見の主な内容は次の通り。

記者（リチャード・グイン氏） サミットの一般的印象は、首相は非常にうまくやった、驚くほど立派にやりこなした、ということのようだが、首相自身も驚いているか。

クラーク首相 いや、私は驚いてない。第一日目の朝食のとき、カーター大統領、ジスカールデスタン大統領、シュミット首相らと、わずかの間意識していたが、やがて皆がナイフとフォークを使って卵を切り始め、会話が始まり、朝食が終わると、私もその場の感じがつかめてきた。そのあとは、要するに会議だ。私の人生は会議の連続だったからね。

記者 ところで、選挙公約のうち、ぜひやりとげたい、と考えているのはどれか。

首相 いくつかの公約は、選挙民がわれわれに与えた信託に関わる基本的なもの

のだ。不動産減税などがそれに当る。他の公約についても、首相に就任して以来、実行できないものはないことが分っている。もちろん、中には、支持者の方々が期待していたほど早急には実施されないものもあるが。

記者 クロスビー蔵相は、カナダと米国の間の自由貿易の可能性について全国的な討論を望む、と述べている。蔵相は、また（カナダの対米依存を減らすという）第三の選択はうまくいっていない、とも言っている。これは首相の政策（を代弁したもの）か。

首相 そうだ。（米国との）自由貿易はひとつの考えだ。クロスビー蔵相は、自由貿易はオブションだと言ったのだ。全国的な討論は、まず政府による調査から始めたい。（自由貿易が実現するとすれば）米加自動車協定のような形での部門別のアプローチをとるのではないか。

第三の選択はうまくいっていないとクロスビー蔵相が言っているのは、カナダの対米依存を抑えようとしたこの政策が採択されて以来、対米依存はかえって増大している、ということだ。

記者 サミットでは、西独、フランス、

英国、イタリアという欧州四カ国と、他の三カ国——すなわちカナダ、米国、日本——の間に亀裂（敵対ではない）があったという印象を強く受けた。そういう不一致を首相も感じたか。また、北アメリカ、オセアニア、東南アジア、日本を網羅した環太平洋共同体の話があるようだが、この構想を進めていくつもりか。

首相 環太平洋共同体の構想は検討しているが、これはまだ漠然としたものだ。（ヨーロッパ四国と他の三国間に）不一致は確かにあった。双方の態度には、明瞭な違いがあった。私が、初めのあいさつの中で、カナダは日本の隣国だと意図的に言ったのは、そのためだ。

第三の選択は、ヨーロッパに向けていた。私が進めていきたいことのひとつは、太平洋地域との貿易の推進だ。カナダ国内では、事業資金の大半がアルバート州やブリティッシュ・コロンビア州

サミット東京宣言

（カナダに関する部分）

カナダ、日本及び米国は、それぞれが国際エネルギー機関（IEA）において一九七九年について誓約した調整済み輸入水準を実現し、また一九八〇年の輸入をこの一九七九年の水準より高くない水準に維持し、これを監視するであろう。（一九八五年の石油輸入の上限目標について）

現在から一九八五年までの期間、カナダの石油生産は極端に減少するであろうが、石油消費の年間平均成長率をパーセントに抑え、その結果として、一九八五年までに一日当たり五万バレル分石油輸入を減少させる。従って、カナダの輸入目標値は、一日当たり六十万バレルとなる。

といった西部へ移動している。（その結果）、太平洋地域について何らかの知識をもっている新しい事業者が沢山でてきた。彼らの視点は、東部のカナダ人の視点とは異なっている。

記者 エネルギー問題はサミットを独占したが、首相はカナダ国民にどういう生活様式の変更を求めるつもりか。

首相 OECDやサミットでなされたことは、きわめて大事だ。しかし、国民に事態の深刻さを認識してもらうには、国内の石油生産が減少するというエネルギー庁の報告にもっと焦点を当てることだ。われわれの問題は、カナダにはいつまでも石油がある、石油問題はどこかよその国の問題だという心理があることだ。

記者 ケベック問題だが、レベック州首相はすでに州民投票で敗北した、という見方がある。首相もそう思うか。

首相 いや、まだそうは思わない。彼はまだ敗北していない。しかし、連邦主義者が知性をもってやれば、彼は敗北するだろう。今後六、七カ月は、きわめて重要だ。

記者 それはなぜか。頭をかかめて、何もしない方がいいのではないか。そうすれば、レベック首相には攻撃する目標がなくなる。

首相 州民投票は選挙みたいなもの。十票ほど負けていると想定して選挙戦を進めないと、本当に負けてしまう危険がある。勝てる者でも、努力しなければ勝てない。

（トロント・スター紙より転載）